

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	皆川 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	職員の研修派遣に係る良好な体制作り	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	消防の任務を遂行するため、消防の資機材整備と同様に職員研修による知識・技術・資格等の取得は必要不可欠であり、常に最新の技術や知識を修得するため、計画的に人材育成に取り組むこととする。また、今後数年間における消防職員の退職者増加も勘案しながら、不断の体制強化に努める必要がある。
②①に基づく取組み結果	市民ニーズに応えられるよう、計画的な研修派遣者を選考し、職員の資質向上を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図(対象をどうするのか)	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を修得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	消防職員27人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	派遣計画者数/派遣者数	100	100	94	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	4,364	2,584	金額(千円)	内容	4,098		
国支出金(千円)			1,375	消防学校等負担			
県支出金(千円)			913	技能講習等負担			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	4,364	2,584			4,098		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害の増加及び複雑多様化に対応するため事業廃止はできないので計画的に継続する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関をもって取得する以外に方法はなく、安心できる救急救助体制の確立をするには必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		H24からの繰越		
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正		現年分		
		流用・充当				
④未完了・非着手の理由	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防車両更新事業(救急・救助)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくれます	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	皆川 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に合わせ、車両及び積載資機材の検討を行い、良質安価で且つ迅速的に活動することができる資機材の導入を検討する。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速且つ的確な活動ができる車両を整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、現今の本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	常備消防により迅速、的確に災害対応を実施する。
②事務事業の概要	消防活動に要する消防車両及び車両積載品を購入する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化及び交通量の増加に伴い、救急救助出動件数も増加していることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	救急自動車1台及び救急用資機材一式を購入した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	救急救命士の行った特定行為状況			件	鎌ヶ谷市消防統計
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	0	32,518	金額(千円)	内容	38,353	
国支出金(千円)		16,253	31,815	救急自動車購入費		
県支出金(千円)			662	総合指令システム車載端末装置等移設手数料		
市債その他(千円)		14,000			32,300	
一般財源(千円)		2,265			6,053	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防本部車両更新計画に基づき更新しているが、救急件数の増加により車両走行距離が増えている傾向にあることから、今後更新車両の計画を見直す必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民の安全安心のため継続していかなければならない。また、車両、積載資機材の検討を実施することによりコスト削減を可能とした中で、職員の安全性及び救急への迅速かつ有効的な対応を考慮した車両更新を実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	救急自動車の購入	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	救急自動車を購入した	35,109	35,584	当初	35,109	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越			
③達成状況	完了			補正	32,519	現年分	32,519
④未完了・非着手の理由				流用・充当	475		
		平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	くぬぎ山消防署建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	皆川 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防活動拠点となる消防署庁舎として、安全かつ最適な機能を有した庁舎を建設するために協議・検討を進めていく。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	今年度中に新庁舎の建築を完了し、消防署機能を移転する。
②①に基づく取り組み結果	基本・実施設計委託により、安全かつ最適な機能を有した庁舎の設計を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	くぬぎ山消防署庁舎の耐震診断結果及び耐震改修費用を勘案した結果に基づき、くぬぎ山消防署庁舎を建替える。	意図(対象をどうするのか)	くぬぎ山消防署庁舎を建替えることにより、耐震性能を上げ震災等に強い庁舎となり、使用年数にあっても現行庁舎と比べ長期間となる。
②事務事業の概要	耐震診断の結果、老朽化した消防署の耐震性能を確保するため、建替えを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	くぬぎ山消防署は昭和52年12月に建設され、昭和56年の建築基準法耐震基準改正以前の建物であり、東日本大震災が発生したことにより、震災に強い消防体制づくりが求められており、災害に備えた防災対策という施策分野への要望も高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	基本・実施設計委託の契約を締結し、設計終了後、くぬぎ山消防署建替工事として、建築、電気設備、空調設備、太陽光発電設備及び給排水衛生設備5件の工事契約を締結した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i 庁舎建替え済み率	0	0	0	施設	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	25,598	27,139	金額(千円)	内容	223,048	
国支出金(千円)	0	873	14,175	基本・実施設計委託		
県支出金(千円)	0	0	10,500	工事前払金(太陽光発電設備、給排水衛生設備)	15,399	
市債その他(千円)	0	5,800			201,000	
一般財源(千円)	25,598	20,466			6,649	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害対応に支障を来すことなく、近隣住民の協力を得ながら工事を進めていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民ニーズの高い安全に暮らせる社会システムを実現するには、防災拠点となるくぬぎ山消防署の施設整備を早急に進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	基本・実施設計委託及び建替工事契約の締結	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	設計完了及び工事契約の締結	107,520	108,419	当初	32,320	H24からの繰越	15,797
				H24⇒25繰越	32,320		
③達成状況	完了			補正	43,779	現年分	11,342
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成26年度への繰越額(単位:千円)		64,700			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防本部庁舎建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	皆川 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	災害対応時の中枢を担う消防本部庁舎として、安全かつ最適な機能を有した庁舎を建設するために協議・検討を進めていく。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	今年度中に新庁舎の建築を完了し、消防本部機能を移転する。
②①に基づく取組み結果	実施設計委託により、安全かつ最適な機能を有した庁舎の設計を実施し、建替え工事を開始した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部庁舎の耐震診断結果及び耐震改修費用を勘案した結果に基づく消防本部庁舎建替え。	意図(対象をどうするのか)	消防本部庁舎を建替えることにより、耐震性能を高め震災等に強い庁舎となり、使用年数にあつては、現行庁舎と比べ長期間となる。
②事務事業の概要	耐震診断の結果、老朽化した消防本部庁舎の耐震性能を確保するため、建替えを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の中枢を担う消防本部庁舎の建替えを行うことにより、震災等災害時において迅速な対応が可能となり、消防力の強化充実へとつながる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	基本・実施設計委託契約を締結し、設計終了後、消防本部庁舎建替工事として、建築、電気設備、空調設備、太陽光発電設備及び給排水衛生設備5件の工事契約を締結し、建替工事を開始した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i 庁舎建替え済み率	0	0	0	棟	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	3,311	145,396	金額(千円)	内容	699,273	
国支出金(千円)			122,800	工事前払金	15,399	
県支出金(千円)			19,746	基本・実施設計委		
市債その他(千円)		128,600			673,700	
一般財源(千円)	3,311	16,796			10,174	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害対応に支障を来すことなく、工事を進める必要がある。また、建替場所が住宅地に囲まれていることから、騒音や振動に対する近隣住民への配慮が必要である				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民ニーズの高い安全に暮らせる社会システムを実現するには、災害活動拠点である消防本部庁舎の施設整備を早急に進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	家屋調査、電波障害調査及び工事の着工	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	家屋調査及び電波障害調査委託完了し、工事契約を締結した。	210,597	241,385	当初	210,597	H24からの繰越	19,746	
				H24⇒25繰越	30,630			
③達成状況	完了			補正		145,396	現年分	125,650
④未完了・非着手の理由				流用・充当	158			
		平成26年度への繰越額(単位:千円)				85,100		